

4)イチゴ新品種候補「道南8号」

道南農業試験場 研究部 園芸科

1.はじめに

北海道のイチゴは春どりの生食用品種として早生で食味が良く多収であることから、「宝交早生」が主に栽培されている。しかし、最近では、日持ち性が悪い、屑果が多い、果形が悪い等の欠点が目立つようになり、これらを改良した新品種の開発が望まれていた。

2.育成経過

本系統は、「宝交早生」の欠点である日持ち性の向上、上物率の向上、果形の改良を目指し、昭和62年に道南農試とにおいて光沢良好で、果実が硬い道南農試選抜系統「59交13-37」を種子親に、果皮色が濃く、果形の良い「麗紅」を花粉親に交配し、以後選抜を図り、平成2年から生産力検定、地域適応性検定を行い有望と認められたものである。

3.特性の概要

- 1)形態的特性：「宝交早生」に比べ、草勢は強く、小葉は大きく、葉数は少ない。ランナーの発生は7～10日遅いが発生数は多い。花は大きく、花房当たりの花数も多い。
- 2)収量性：上物収量は「宝交早生」並で、平均1果重は2～3g重く大果であり、上物率は10%程度高い。
- 3)果実特性：果皮は鮮紅色で、果形は円錐形で光沢があり、外観は「宝交早生」に比べ良好である。中心空洞は「宝交早生」より大である。香り及び食味は「宝交早生」並に良い。果皮は強く、日持ち性が良い。
- 4)生態的特性：収穫始期は「宝交早生」に比べ7～10日遅い中生である。休眠性は「宝交早生」より深い。

4.普及態度

全道一円。ハウス無加温半促成栽培面積150haの内70haを本系統で置き換える。中生のため、「宝交早生」と組み合わせて、収穫出荷の分散を図ることができる。

表 「道南8号」の特性

品種系統名	早晩性	草勢	葉の大きさ	花房数	食味	果形	果皮色	果実の硬さ
道南8号	中	強	大	や少	良	円錐～長円錐	鮮紅	中
宝交早生	早	中	中	多	良	円錐	鮮赤	軟

品種系統名	光沢	日持ち性	空洞	上物収量*	上物平均一果重(g)**	上物率
道南8号	良	や良	中	101	13.2	や高
宝交早生	中	や不良	小	(100)	11.0	中

*：「宝交早生」対比、育成場および地適3ヶ所の平均値

**：育成場および地適3ヶ所の平均値

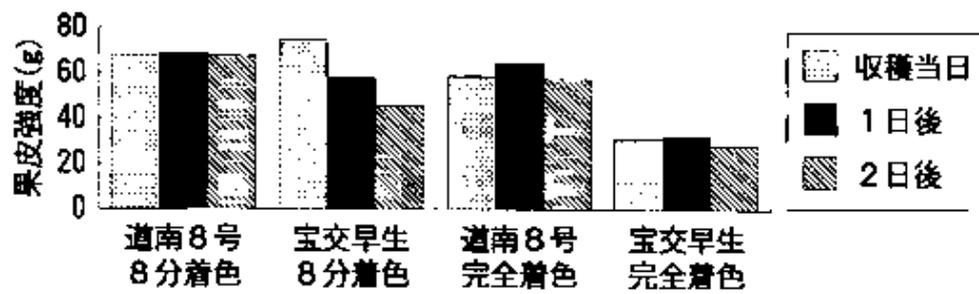


図1 収穫後の果皮強度変化
(平成4年、テクスチュロメーターで測定)

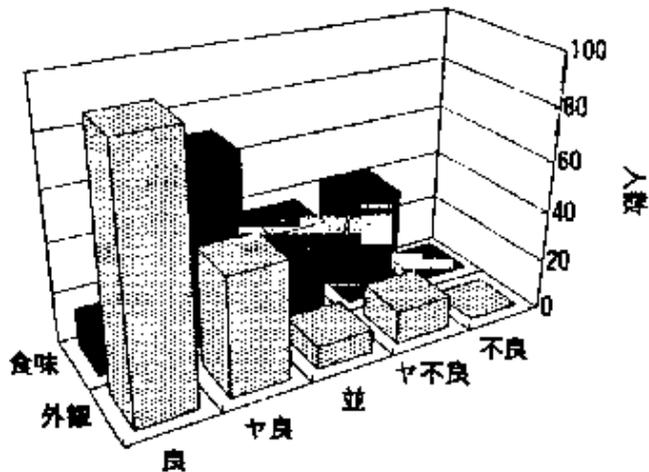


図2 食味アンケート結果
(平成4年：「宝交早中」との比較)